

26PA-am109

明治時代の¹大分県内病院薬剤師リスト

○五位野 政彦¹ (東京海道病院薬)

【はじめに】演者は過去に、明治 10 年代における大分県の薬学関連事項を調査した(2013 年日本薬史学会年会, 2014 年日本薬学会年会)。また大分県の病院薬局業務および薬学(科学)教育のさきがけであった大分県医学校病院の薬局長五十川徹夫(明治 12 年東京衛生試験場在籍)に関する報告を行った(2014 年日本薬史学会年会)。五十川は日本薬学会会員であったが薬剤師免許を取得していなかった。彼は医学校病院閉鎖後(明治 22)に県衛生業務についた。

では明治時代の¹大分県における病院薬剤師(明治 23 年薬律以降)には誰がいたであろうか。堀岡の明治時代の病院薬剤師についての報告は東京(帝国)大学出身者(無試験)が中心であり、¹⁾。試験を経ての薬剤師についての記述は少ない。

今回明治時代における同県の病院薬剤師名についての調査結果を報告する。

【調査方法】下記資料を参照した。

『大分県薬剤師会百年史』『大分県医師会百年史』『大分の医療史』

『帝国薬業家名鑑』(m43), 『日本杏林要覧』(m42), 『病院薬学, Vol. 3, 63-79』¹⁾

【結果】下記の 4 人の病院薬剤師の略歴及び 20 名の氏名が判明した。

木下豊次郎(試験明治 21 年 朝見病院), 魚住薫也(得業明治 30 年 大分衛戍病院), 星田千代雄(東京薬学校明治 31 卒, 試験明治 32 東大模範薬局-大分県立病院), 小林伝五郎(明治 44 年赴任: 東大模範薬局-大分県立病院)

【考察】医学校病院院長であり、薬学を重要視していた鳥潟恒吉が開院した朝見病院(民間病院)において病院薬剤師が存在した。軍を含めて計 24 名の病院薬剤師が明治時代の¹大分県に存在した。

【文献】1) 堀岡, 病院薬学, Vol. 3, 63-79